

## 茶華道部のお茶会に招待されました。

6月15日（木）放課後、茶華道部のお茶会に招待されました。

6年次生（高3）の7名にとって、本日が最後の活動日ということで、7名は、茶道裏千家の許状「入門」「小習」「茶箱点」を授与されました。その後、立礼（りゅうれい）でのお茶会が開かれ、私はそこに招待されました。

本校の茶華道部は、部員34名で茶道を学んでいます。人数が多いので3つのグループに分かれて活動しています。週1回の活動日には、茶道裏千家の山本享子先生にお越しいただき、本格的な点前（てまえ）が学べるようになっていきます。お茶（抹茶）をたてて飲むための作法を茶道では点前（てまえ）といいます。この点前を覚えることから、茶道は始まります。6年次生は、さすがに素晴らしいお点前でした。

茶華道部では、毎年、かえで祭で『清楓茶会』を開いており、多くのお客様が見えていました。また、海外からのお客様に対する茶道体験にも協力してくれています（ドリーム第246号・マレーシアの高校生の訪問）。

日本の伝統文化を代表する茶道（茶の湯）の基礎は、東山文化の時代（室町時代後半・15世紀）につくられます。室町幕府の8代将軍足利義政の茶の師匠であった村田珠光（むらたじゅこう）が、茶と禅の精神の統一を主張し、茶室で心の静けさを求める「侘茶（わびちゃ）」を創出しました。「侘茶」は、その後、堺の町衆である武野紹鷗（たけのじょうおう）を経て、その弟子の千利休によって安土桃山時代に完成されるに至ります。

以上、「中島のミニ日本史講座」でした。



■かえで祭での『清楓茶会』の様子

